



ナース★アクション

vol.19

2024.9.4
全日本民医連
職員育成部

憲法でアクション!! ケアこそ未来を切り拓く

<https://kirarikango.com/>

働きながら学ばなければ看護職になれないということこそ問題なのだとことを、
解りやすく社会や裁判所に伝えていくことが必要

公開オンライン学習会に454人参加

長洲事件裁判支援署名は、9月末を節目に10月中旬まで継続します!

去る9月2日(月)YouTube配信にて、『長洲事件から見えるもの～ 准看・ジェンダー問題と日本の貧困～』
をテーマに公開学習会を開催。講師にはジャーナリストで上智大学教授の水島宏明氏をお招きし、「准看護師」と「生活保護」を考える」と題してテレビ放映した映像を駆使してお話していただきました。

「不適切にもほどがある」
時代を変えていこう

“生活保護”をめぐるでも“准看問題”をめぐるでも、共通して見えてくるものは“ジェンダー問題”です。生保の水際作戦の犠牲となった圧倒的多数は、シングルマザーです。女性の貧困が背景に存在します。“准看問題”も医師は男性、看護婦は女性という構図の中で、医師(開業医)が「(准看学生を)養ってやっている」という男社会の「上から目線」の意識と、圧倒的に不均衡な力関係にあって、深刻な「セクハラ事案」も頻発していました。



お話しする水島宏明氏
ジャーナリスト/上智大学教授

「当事者の言葉」が
問題を浮き彫りにする

リーマンショックの時の貧困とコロナ禍での貧困との比較研究をしたことがあります。コロナ禍で「学生の貧困」という問題が大きく取り上げられるようになった要因は当事者がSNSで発信した事にあります。InstagramやTikTokで柔軟にキャッチーなフレーズで当事者が実状を伝えたからです。今の若い人たちはSNSでの発信に長けていますから、思い切って委ねてみる、相談しながら創っていく事が求められていると思います。

YouTube[限定公開]は▶▶▶ https://www.youtube.com/watch?v=MU0dIC_KJIA&t=5296s

近畿高看の学生自治会と京都府会議員との懇談が実現!

8月9日京都府庁で、近畿高等看護専門学校の学生と教員が『高等教育無償化の実現』に向け、日本共産党京都府議団と話をしました。

看護学生の多くは、様々な奨学金制度を利用し、バイトをしながら学生生活を送っています。しかし、高等教育修学支援新制度の給付型奨学金は、親の収入だけでなく学生のバイト代も世帯収入とされ基準額を超えると減額されてしまいます。

学生から「京都市は交通費が高く学生に優しくない」「生活のため実習中もバイトしないといけない」「バイトで疲れて体がしんどい」「私立大学だと約800万円かかるので専門学校に進学した」など切実な思いを訴えました。教員から「『食事は大事と思いながら、野菜を手取るが値段が高く売り場に戻す』『水道代節約のためお風呂に浸からない』『冬場は光熱費節約のため暖房をつけず厚着で寒さをしのぐ』といった生活を学生同士がお互い共感し合っている」と実態を伝えました。「看護学生が経済的不安なく、安心して学び続けられる環境を整えることは喫緊の課題であり、現行制度の拡充や学費減免や無償化を」府議団に向けて要請しました。

議員からは、「下宿代の補助や学生の交通費無償化は専門学生が除外されているので、秋の予算編成で訴えていきたい。医療に携わる人を国がしっかり育てる・支える必要がある。議会で発言するだけでは中々実現しないため、こういった現場の声を上げてほしい」と返答がありました。



高等教育無償化の実現に向けて声を届けよう!!

岡山県連からは、署名用紙3千枚追加がありました。必要なところは職員育成部までメール下さい。

長洲事件裁判支援署名は熊本民医連にご送付をお願い致します。

〒862-0954 熊本市中央区神水1丁目14-41 くわみず病院別館 3F

